

日本車椅子バスケットボール連盟審判部 各位
愛媛県バスケットボール協会 審判委員会 各位

大会参加報告書

平成31年 4月15日

報告者 正岡 京子

この度参加しました、大会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

大会名	天皇杯 第47回日本車いすバスケットボール選手権大会西日本第2次予選会
参加者 (報告者)	正岡 京子 (所属カテゴリー) 社会人連盟・車いす
期 日	平成31年 4月 6日 (土) から 平成31年 4月 7日 (日)
会 場	維新百年記念公園スポーツ文化センターアリーナ(山口県山口市)
参加者	門川浩人、増竹昇、金川光一、加藤昌樹、岸良太郎、福田典子、今村和成、初瀬真由子 小池匡弥、三木大助、林真理子、平野忠、光森久敏、網谷昭義、辻綾、中村篤史、中野龍一 田邊大介、田中初、三藤康弘、渡瀬恭平、川邊静香、山本美紀、今城千恵、正岡京子
報告 1	<input type="checkbox"/> ゲーム 日時 4月6日 (土) 18時00分 岐阜 SHINE (東海北陸ブロック) 対 SEASIRS (九州ブロック) <input type="checkbox"/> 割当 CC 正岡京子 U1 渡瀬恭平 U2 田邊大介 CM 小池匡弥 主任 初瀬真由子 <input type="checkbox"/> カンファレンス ◆大会テーマとして、新ルールの理解、対応 ◆レフリーとして、この大会のコートに立つ自覚 ◆新ルールの確認 (2019スタートのルールをクルーで確認) ◆マニュアルの確認 (T.C.Lの位置でのそれぞれの役割、独立して責任のあること、クルー間で協力することを確認) ◆コートでのレフリーの所作を確認 ◆特別な場合のレフリー間の協力と責任エリアを確認。

	<p>□ 主任（初瀬氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> * この大会のレベルを考えての RSVQ、FOM を意識して判定をしていない。 * 吹いたもの、吹かなかったものがあるがその内容が本当にそうだったのかを考えたほうがよい。 * 映像より、3点の現象について <ol style="list-style-type: none"> 1 試合最初からローテーションミスあった。そういったことが試合前に確認できていたのか。 2 ショットクロックバイオレーションの成立を判定するのは、どのレフリーが責任をもつのかそもそも成立していない。未確認である。 3 判定するべきものをしておくこと。
<p>所感</p>	<p>クルーチーム間での反省としては、 ショットクロックの管理が、不安定であった。 クルーチーム間でできたことは タイムアウト、インターバル等で3人が情報共有、認識をふやしながら試合管理ができた。 2件の事象では、近くのクルーが判定できなかったものを、3人がすぐ集まり対応できたのは お互いの協力ができていたので良かった。 新ルールに関しては、選手にもお伝えしながら進め、トラブルはなかった。</p> <p>CCとしては、試合中、3人が対等であり、個々で自分のエリアを担当できた ことで、CCとしては特に強く引っ張ることもなく、滞りなく試合を終了させることができ クルーに感謝している。</p> <p>天皇杯の2ラウンドの試合としての判定基準が示すことができず反省。 主任からのご指摘は真摯に受けとめ、次の機会には対応していく。</p>

日本車椅子バスケットボール連盟審判部 各位
愛媛県バスケットボール協会 審判委員会 各位

大会参加報告書

平成31年 4月15日

報告者 正岡 京子

この度参加しました、大会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

大会名	天皇杯 第47回日本車いすバスケットボール選手権大会西日本第2次予選会
参加者 (報告者)	正岡 京子 (所属カテゴリー) 社会人連盟・車いす
期 日	平成31年 4月 6日 (土) から 平成31年 4月 7日 (日)
会 場	維新百年記念公園スポーツ文化センターアリーナ(山口県山口市)
参加者	門川浩人、増竹昇、金川光一、加藤昌樹、岸良太郎、福田典子、今村和成、初瀬真由子 小池匡弥、三木大助、林真理子、平野忠、光森久敏、網谷昭義、辻綾、中村篤史、中野龍一 田邊大介、田中初、三藤康弘、渡瀬恭平、川邊静香、山本美紀、今城千恵、正岡京子
報告1	<input type="checkbox"/> ゲーム 日時 4月7日 (土) 12時00分 神戸ストークス (近畿ブロック) 対 高知シードラゴンズ (四国ブロック) <input type="checkbox"/> 割当 CC 正岡京子 U1 平野 忠 U2 山本美紀 CM 田邊大介 主任 福田典子 <input type="checkbox"/> プリゲーム・カンファレンス ◆大会テーマとして、新ルールの理解、対応 ◆レフリーとして、この大会のコートに立つ自覚 ◆新ルールの確認 (2019スタートのルールをクルーで確認) ◆マニュアルの確認 (T.C.Lの位置でのそれぞれの役割、独立して責任のあること、クルー間で協力することを確認) ◆コートでのレフリーの所作を確認 ◆特別な場合のレフリー間の協力と責任エリアを確認。 ◆前日のレフェリングからの課題。

	<p>□ 主任よりアドバイス（福田典子氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 3人の協力はどうだったか？ 外からみていると、CCと他2人のような感じがした。 * 途中、コートでのトラブルをスムーズに解決できなかった？ * 走り方に気を付ける（手の握り方、ダラッと降ろさない） * 集中を保てる時間を長くする。
<p>所感</p>	<p>試合途中、リングのアームカバーが外れるトラブルがあったが対応はスムーズにできたかと思う、トラブルが起こったときも3人で確認事項、テンポが狂わないようにコミュニケーションはよくとれたと思う。センターについて、位置取り、アングルを工夫しなければならない場面でも、3人が動きの工夫にトライし続けたことは、判定できることに結びついたのではないかと感じ、良かったと思う。</p> <p>所作は毎回、注意をされるが今回はよいと思われる時間帯を明確に言ってもらいその状態の自分を忘れないようにしたい。</p> <p>今回、天皇杯2次予選という日本一決定する大会に参加でき緊張する時間もあったが、それに経験値を高めることができた。</p> <p>2ゲームともCCを任せられ、ゲーム管理はもとより、新ルールの適用など、試合前の確認事項を3人で入念しコートに臨むことの重要さを感じました。</p> <p>空いた時間では他県の審判員との交流など、情報も得ることができ、四国にこれからに反映していきたいと思う。</p> <p>今回、四国ブロックからは3名召集していただき感謝です。</p> <p>この経験を地元へ伝えるのが一番重要であるので、発信していきたいと思います。</p> <p>本部、ならびに関係者の皆さま、大変お世話になりました。ありがとうございました。</p>

日本車いすバスケットボール連盟審判部 各位
愛媛県バスケットボール協会 審判委員会 各位

大会参加報告書

平成31年4月15日

報告者 今城 千恵 印

この度参加しました、大会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

大会名	天皇杯 第47回日本車いすバスケットボール選手権大会西日本第2次予選会
参加者 (報告者)	今城 千恵 (所属カテゴリー) 東予 U-12・車いす
期 日	平成31年 4月 6日 (土) から 平成31年 4月 7日 (日)
会 場	維新百年記念公園スポーツ文化センターアリーナ(山口県山口市)
参加者	門川浩人、福田典子、増竹昇、加藤昌樹、岸良太郎、金川光一、初瀬真由子、今村和成、小池匡弥、三木大助、林真理子、平野忠、光森久敏、網谷昭義、辻綾、中村篤史、中野龍一、田邊大介、田中初、三藤康弘、渡瀬恭平、川邊静香、正岡京子、山本美紀、今城千恵 以上 25名
報告1	<p>■ゲーム 日時 4月6日(土) 第3ゲーム 14時00分～トスアップ 福岡 breez 対 神戸 STORKS</p> <p>■割当 CC 増竹昇氏 U1 網谷昭義氏 U2 今城千恵 主任 正岡京子氏</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス L,C,Tの、ローテーション前と後のそれぞれの責任エリアやアングルの確認。 Lの移動は、ショットクロック5秒前まで。 バックピックがあった時、コート縦割りの分担で2POで対応。Cに負担が大きい時は、Lのクローズダウンポイントまでの移動で、その後のプレイに対応する。 チームファール3個目の合図 新ルールでのTOの管理(ショットクロック)やプレイへの対応</p> <p>■ゲーム中 CCよりフリースローバイオレーション漏れの指摘があった。 タイムアウト後の呼び入れをもっとスムーズにする。ダメな場合は、続いてタイムアウトの請求をしてもらうか、強制的にするか、ルールを利用する。 慌てない、冷静に。</p> <p>■ゲーム後(主任より) U1,U2の私たちの見落とし、取り上げに対して、抜かりなくCCの笛が入りカバーしてもら</p>

	<p>っていたが、U1,U2 同士の協力は、弱かった。ゲーム初めの CC の笛で、ラインが示されたのだから、もっと合わせて吹いても良かった。</p>
所感	<p>各ブロックを勝ち上がってきた力のあるチームの戦いに新ルールで対応する事が、テーマのひとつでしたが、自分のルールに対する理解の甘さ、適用のミスから自分の首を絞める事となり、選手に詰め寄られる等、頑張りたい気持ちが、空回りした結果となってしまいました。</p> <p>なかなか経験できない大会の1つに参加でき、コートに立てた事に感謝しています。</p> <p>そして今回の悔しさを忘れず、今後も取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>ありがとうございました。</p>

審判講習会 参加報告書

平成31年4月16日

報告者 山本 美紀 印

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	第47回日本車いすバスケットボール選手権大会 西日本第2次予選会
参加者 (報告者)	山本 美紀 (所属カテゴリー) U-12連盟
期 日	平成30年 4月 6日(土) から 平成30年 4月 7日(日)
会 場	山口市 維新百年記念公園スポーツ文化センターアリーナ
参加者	日本車いすバスケットボール連盟所属審判員約25名
報告① 1回戦	<p>■ゲーム 日時 4月6日(土) 12時30分～ 広島 Rise 対 太陽の家スポーツ</p> <p>■割当 CC 三藤 康博 氏 (長崎) U1 光森 久敬 氏 (福井) U2 山本 美紀 (愛媛)</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <p>CC: 三藤さんより、以下のことをクルーの確認事項として話をしていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 3POメカニクス、3人の協力の確認。○ 新ルールの確認。<ul style="list-style-type: none">・ 24秒ショットクロックの変更点。・ テクニカルファールの処置後のプレーの始め方。(テクの前のボールの位置、保持チームはそのまま同じで開始)・ 4Q残り2:00以降、タイムアウト後の開始場所の確認(バックコートか、フロントか。その時のショットクロックの確認)○ センターライン付近で、センターがビジーの状態になったときのローテーションの確認<ul style="list-style-type: none">・ リードがビジーな状態を素早く察知して、ボールサイド2になるように動く。○ イリーガルスクリーンの見落としのないようにする。○ ショットクロック、タイマーの管理。○ ラインバイオレーションが起こったときの対処と情報共有。 <p>■反省と次への課題</p> <p>転倒が起こったとき、ボールの状況を十分に把握できていないことが課題となった。「ペイントエリア内での転倒か。誰がボールを持っていたのか。シュートを打とうとしていたのか。」そして、転倒でタイマーを止めたとき「どちらのチームが、どこからスローインか、ショット</p>

	<p>クロックは何秒か」をはっきりコート内の選手に伝えるということができていないために、選手の混乱を招いたことが、課題となった。</p>
<p>報告② 5・6位決定戦</p>	<p>■ゲーム 日時 4月7日(日) 12時30分～ 神戸 STORKS 対 高知シードラゴンズ</p> <p>割当 CC 正岡 京子 氏(愛媛) U1 平野 忠 氏(富山) U2 山本 美紀 (愛媛)</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <p>CC: 正岡さんより、以下のことをクルーの確認事項として話をしていただいた。</p> <p>○ パワーポイントを使って、詳しく3POメカニクスと3人の協力の確認(ローテーション、プライマリーの確認、時限の終わりのタイマー管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トスアップ後のU1とU2の動きの確認 ・ ストロングセンターの意識 ・ タイムアウトのとき、必要最小限の情報を共有し合う。メンタル的に、引きずらないように、タイムアウトの間に、自分の気持ちを切り替えて、ゲームに入る。 ・ 前日の試合の反省や課題を、この試合でどのように取り組むか、お互いの意識の確認。 ・ 何かトラブルや協議事項が起こった際は、3人で集まり情報共有を行う。周囲に3人のクルーが、協力し合っているという姿を見せることが大切さである。 <p>■反省と次への課題</p> <p>前日の反省と課題を意識して、審判に臨んだ。基本的なことではあるが、「タイマーを止める→バイオレーションか、ファールか、転倒か」「タイマー、ショットクロックの確認」リスタートは「どちらのチームから、どの場所で、ショットクロックは何秒からスタートか」をボイスでしっかり表現することを意識した。前日同様に、ペイントエリア内で転倒が起こった。センターからトレイルに上がっている移動中にファールが起こり、自分がファールを取り上げたが、オフェンスがファールを起こしたのか、ディフェンスがファールしたのか、難しい場面で、判定に自信がなかった。結局、その自信のなさの原因が、動きながらの判定だったということだ。日頃から、「動きながらの判定は、NG」とよく言われているが、自分も、動きながらの判定だったことを反省した。</p>
<p>所感</p>	<p>日本選手権大会の西日本第2次ラウンドという大きな大会でコートに立てたということに感謝しています。今回の大会は、コミッショナーで、コート内の選手の持ち点をパソコンで入力し、選手交代時に、チームの持ち点の14点がオーバーしていないかの管理をする役職が設けられ、そのコミッショナーを体験することもできました。日頃、持ち点の管理は、スコアラーがしているだけに、審判として持ち点の管理の意識が薄かったので、改めて選手一人一人の障がいの度合いを意識することができました。また、新ルールの導入で、TO管理の大切さを感じることができました。特に、ショットクロックやテクニカルファールの処置後のリスタートは、チーム関係者も新ルールを理解していない人がおり、審判に抗議している場面も見られました。審判として、しっかり新ルールを把握し、正しくルールを説明できる技量が必要だと感じました。</p> <p>大会を通して、日頃、自分が課題だとしていることが、今大会でも出てしまい、自分の力量不足を痛感しました。今後、課題に対して真摯に向き合い、審判としての資質向上に努めていきたいと思っております。ありがとうございました。</p>